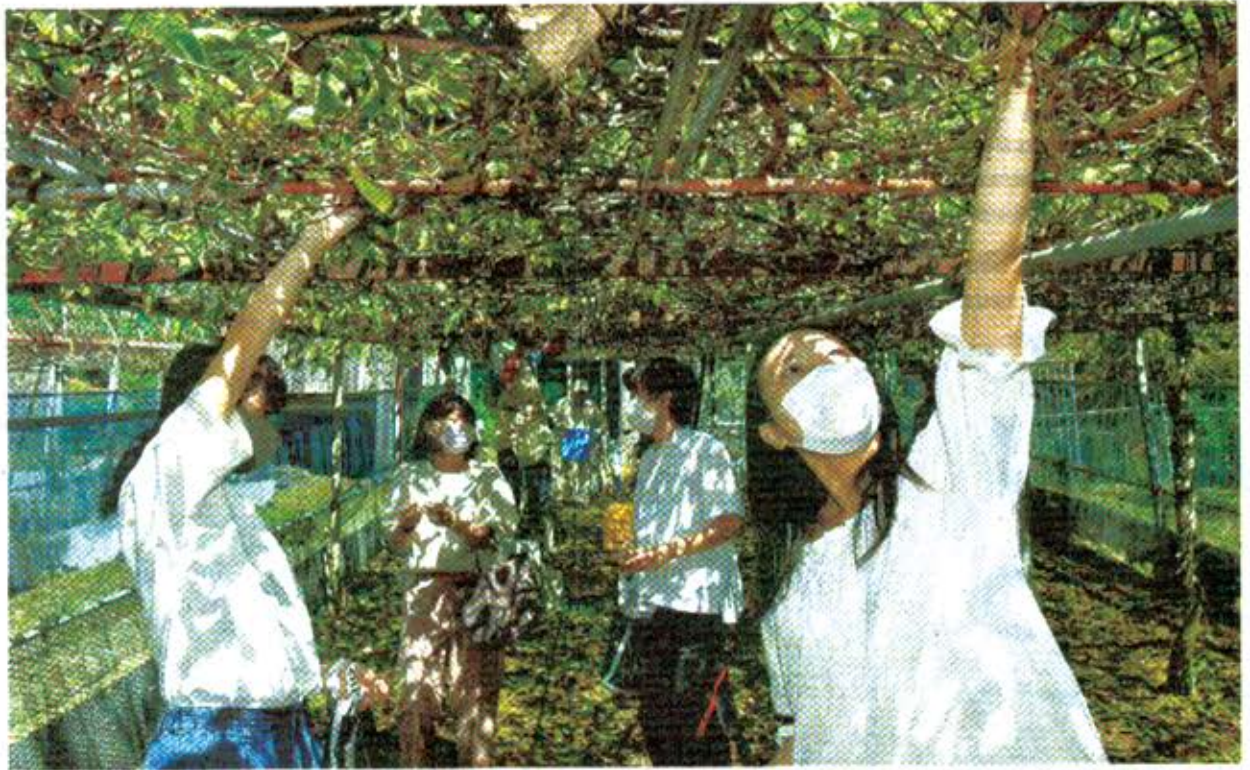


県大生 サルナシでゼリー

仁淀川町 来月試験販売

サルナシを収穫する高知県立大学の学生ら

(仁淀川町北川)



【佐川】吾川郡仁淀川町で栽培されているサルナシを生かしたゼリー作りに、高知県立大学の学生が挑戦して

田中きよむ教授(57)の

いる。このほど、地域

サルナシはマタタビ

住民と一緒に収穫や仕

科のつる植物で、果実

込みの作業を行った。

はキウイフルーツに似

10月に同町で試験販売

た味。ゼリー作りは、

する予定。

作。

ゼミに所属する県立大の学生らが取り組んでいる。

もらいながら最終的に、気軽に食べてもらえるゼリーの商品化を決めた。

藤原さんは「学生が手伝ってくれなかったらここまでできなかった。若い人と一緒に作業できて楽しいですね」。

田中教授と学生は同

22日は学生4人が同

社会福祉学部3年の

町の中津川流域で、地域交通の課題などを継続的に調査。2018年秋に開いた住民との座談会で、下名野川地域長の藤原年男さん(74)が栽培するサルナシを紹介され、活用策を練ってきた。

町北川の畑で、町社会福祉協議会の職員らとサルナシ約30キロを収穫。下名野川地域集会所でジューサーを使って皮ごとつぶしてペー

「おいしくクオリティの高いものを作って、地域外の人にも買ってもらえるような商品にしたい」と意気込んでいる。

これまでにドレッシングやジャムなどを試

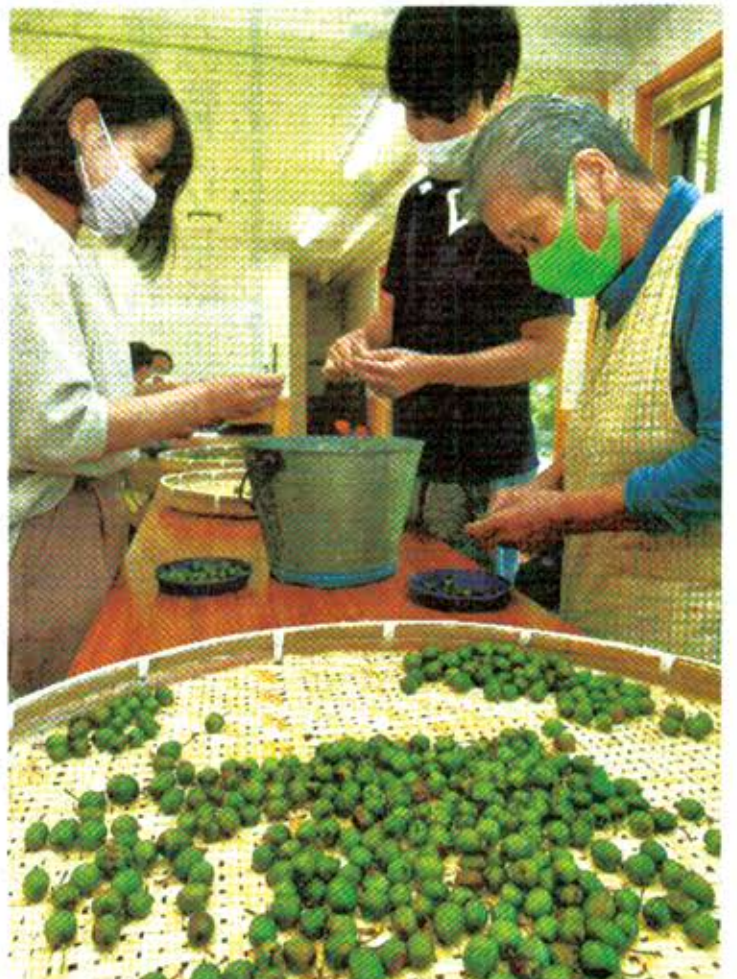
作り、同町別枝地区の

品にしたい」と意気込

作。

イベントで住民向けに

試験販売する。



地域住民らとわいわいより分け作業をした(同町の下名野川地域集会所)

(楠瀬健太)